



神奈川労働局発表
平成27年5月26日

神奈川労働局労働基準部安全課
課長 酒井 康之
主任安全専門官 長久保 茂
電話 045(211)7352
FAX 045(211)0048

神奈川県下における平成26年の労働災害発生状況について ～ 死亡者数は過去最少の32人～

神奈川労働局(局長 若生正之)では、平成26年における神奈川県内の労働災害の発生状況を取りまとめたので、その概要を発表します。

1 労働災害発生状況

(1) 死亡災害発生状況

労働災害による死亡者数は32人で、過去最少だった平成20年・平成25年の44人に比べ、さらに12人(27.3%)減少し、過去最少となった。

死亡者数が大きく減少した業種は、警備業(H25年5人 H26年0人)、清掃業(H25年3人 H26年1人)など多くの業種で減少した。

(2) 死傷災害発生状況

労働災害による死傷者数(死亡・休業4日以上)は6,639人で、平成25年の6,485人に比べ154人(2.4%)増となった。

死傷災害が多い業種は、製造業:1,076人(前年比+41人・+4.0%)、商業:1,076人(前年比+36人・+3.5%)、建設業:857人(前年比-14人・-1.6%)、陸上貨物運送事業:848人(前年比+42人・+5.2%)となっている。

また、事故の型別では、つまずきなどによる「転倒」が1,553人(前年比+150人・+10.7%)で最も多く、死傷災害全体の23.4%(前年比+1.8%)を占めており、増加率で見ると、「交通事故」が555人で前年比+65人、13.3%増で最も高くなっている。

2 労働災害防止のための今後の取組

神奈川労働局においては、「STOP! 転倒災害プロジェクト神奈川2015」の推進、「交通労働災害防止のためのガイドライン」の周知を含め、引き続き、労働災害の防止に重点的に取り組むこととしている。

関係資料

- 1 平成26年 死亡災害発生状況(業種別・事故の型別)
- 2 平成26年 死傷災害発生状況(業種別・事故の型別)
- 3 「転倒事故を減らしましょう!」(神奈川労働局リーフレット)
- 4 「第12次労働災害防止推進計画の概要」(神奈川労働局リーフレット)

平成26年 死亡災害発生状況(業種別・事故の型別)

神奈川県労働局

型 業種	墜落・転落	はさまれ・ 巻き込まれ	交通事故	飛来・落下	崩壊・倒壊	激突され	その他	合 計	平成25年 合 計	増 減
製造業	1	5		1			1	8	5	3
建設業	8			1			3	12	13	-1
陸上貨物 運送事業	1		2					3	4	-1
商業			1					1	2	-1
清掃業						1		1	3	-2
警備業								0	5	-5
上記以外 の業種	1		3		1		2	7	12	-5
合 計	11	5	6	2	1	1	6	32	44	-12
平成25年 合 計	6	9	4	3	5	4	13	44		
増 減	5	-4	2	-1	-4	-3	-7	-12		

(死亡災害報告による)

平成26年 死傷災害発生状況(業種別・事故の型別)

神奈川県労働局

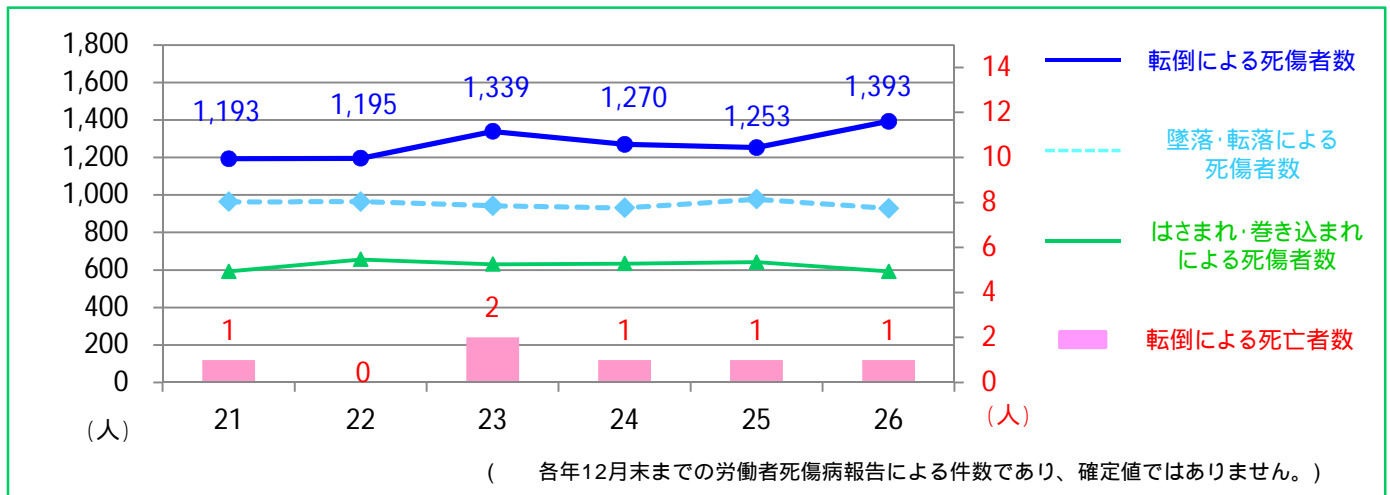
型 業種	転倒	墜落・転落	動作の反動 ・ 無理な動作	はさまれ ・ 巻き込まれ	交通事故	切れ・こすれ	飛来・落下	激突	その他	合 計	平成25年 合 計	増 減
製造業	205	103	116	272	11	112	100	46	111	1,076	1,035	41
建設業	106	292	49	81	26	92	80	42	89	857	871	-14
陸上貨物 運送事業	158	203	126	94	69	13	55	58	72	848	806	42
道路旅客 運送業	47	13	45	3	180	1	3	8	23	323	311	12
商業	315	121	185	61	88	95	50	64	97	1,076	1,040	36
接客娯楽業	129	33	57	30	19	106	20	20	95	509	546	-37
保健衛生業	205	38	233	26	53	15	9	28	84	691	702	-11
清掃業	143	77	66	46	12	26	23	26	38	457	416	41
上記以外の 業種	245	134	117	46	97	28	35	45	55	802	758	44
合 計	1,553	1,014	994	659	555	488	375	337	664	6,639	6,485	154
平成25年 合 計	1,403	1,082	960	691	490	498	340	323	698	6,485		
増 減	150	-68	34	-32	65	-10	35	14	-34	154		

* 休業4日以上の死傷者数(労働者死傷病報告による)

転倒事故を減らしましょう！

 神奈川県労働局・県内各労働基準監督署

仕事中に転倒して4日以上仕事を休む方は全国的に年々増加しており、神奈川県内でも年間1,400人前後の方が被災し、平成26年は大幅に増加しています（速報値）。また、転倒による死亡災害もほぼ毎年発生しています。



あなたの職場では、このような災害が起こっていませんか？

(平成26年中に神奈川県内で発生した主な「転倒」災害)

業種	被災者 年齢、性別 (経験年数)	傷病部位、 傷病名	休業日数	災害の概要
食料品製造業	50歳代、女性 (約2年)	左大腿骨、骨折	約3か月	部品洗浄機から部品を取り出し乾燥炉に入れるため体を反転させたところ、足を滑らせ転倒。
建設業	40歳代、男性 (約30年)	左肩、骨折	約2年	塀の塗り替え工事中、右手にコテ、左手に材料を持ち移動している際、養生シートに足が引っ掛かり転倒し、左肩を強打。
道路貨物運送業	50歳代、男性 (約2か月)	右足脛、骨折	約2か月	契約先の配送室へ荷物を納品後トラックへ戻る際転倒し、右足のすねを地面に強打。
道路貨物運送業	40歳代、男性 (約2年)	右肋骨骨折	約2週間	取引先の荷卸し場所で、トラックの荷台から地上に降りた際、凍結した雪に足を滑らせ転倒、左背中側を路面に強打。
小売業	50歳代、女性 (約20年)	上腕部、骨折	約6か月	店舗の開店準備中、レジカウンターの内側に入ったところ、普段は置いていない段ボール箱に足が引っ掛かり転倒。
新聞販売業	40歳代、男性 (約5年)	外傷性肝損傷	約6か月	新聞配達中オートバイから降車し、車道と歩道の境に設置してある鎖(チェーン)に足が引っ掛かり転倒。
飲食業	20歳代、男性 (約6年)	左足脛、骨折	約3か月	厨房内の片づけ作業中、手にトレーを持って濡れた床で足を滑らせ転倒。
ビルメンテナンス業	60歳代、女性 (約5年)	膝、胸骨骨折	約6か月	清掃作業中、エレベーターに乗り込む際にモップを廊下に忘れたことに気付き、慌てて取りに戻ったところ、廊下床上でつまずき転倒。

STOP！転倒災害プロジェクト2015

～あせらない 急ぐ時ほど落ち着いて～

転倒災害は、どのような職場でも発生する可能性があります。職場での転倒の危険性は、働くすべての人が問題意識を持って原因を見つけ、対策をとることで減らすことができます。「転倒」という身近なテーマから職場の安全意識を高め、安心して働ける職場環境の実現に向けて、神奈川県労働局・県内各労働基準監督署でも、『STOP！転倒災害プロジェクト神奈川2015』として各種取り組みを実施しております。

【プロジェクト実施期間】

平成27年1月20日から12月31日まで

プロジェクトの効果を上げるため、積雪や凍結による転倒災害の多い2月と全国安全週間の準備月間である6月を重点取組期間とします。

【主唱者】

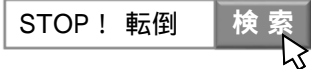
厚生労働省、中央労働災害防止協会、建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会

「STOP！転倒災害特設サイト」をご活用下さい！

転倒災害の現状からその対策まで、事業場での取り組みに役立つ情報を集約してご提供します。

<厚生労働省 ホームページ>

「STOP！転倒災害プロジェクト2015」で検索



1 転倒災害防止に向けたさまざまな対策の紹介

転倒災害の防止に効果のあった事業場の取組好事例、転倒災害防止に役立つ保護具や用具などを紹介しています。



(資料出所：中央労働災害防止協会)

2 転倒予防の知識養成セミナーの紹介

転倒を防ぐための実習を交えて基礎知識を身につけるセミナー、転倒災害防止の基本となる「4S活動」や「KY活動」をテーマとした研修を実施します。

職場の安全、安全週間に関する情報はこちらでも発信しています！
中央労働災害防止協会 <http://www.jisha.or.jp/>

転倒災害の種類と主な原因

転倒災害は、大きく3種類に分けられます。あなたの職場にも、似たような危険はありませんか？

滑り



[主な原因]

- 床が滑りやすい素材である。
- 床に水や油が飛散している
- ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている

つまずき



[主な原因]

- 床の凹凸や段差
- 床に放置された荷物や商品など

踏み外し



[主な原因]

- 大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態での作業

転倒災害防止対策のポイント

転倒災害防止対策により安心して作業が行えるようになり、作業効率が上がります。できることから少しずつ取り組んでいきましょう。

設備管理面の対策

[4S(整理・整頓・清掃・清潔)]

- ◆ 歩行場所に物を放置しない
- ◆ 床面の汚れ(水、油、粉等)を取り除く
- ◆ 床面の凹凸、段差等の解消



転倒しにくい作業方法

[あせらない 急ぐ時ほど 落ち着いて]

- ◆ 時間に余裕を持って行動
- ◆ 滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行
- ◆ 足元が見えにくい状態で作業しない



その他の対策

- ◆ 作業に適した靴の着用
- ◆ 職場の危険マップの作成による危険情報の共有
- ◆ 転倒危険場所にステッカー等で注意喚起



[コラム] 正しい靴の選び方

靴は、自分の足に合ったサイズのものを使いましょう。小さすぎる靴では足指が動かしにくく、バランスを崩したときに足の踏ん張りがきかなくなります。逆に大きすぎる靴では、歩行のたびに足が前後斜めに動いて、靴のつま先やかかとが、足の動きに追従できなくなります。

以下のポイントにも注意して、作業に合った靴を選びましょう。

靴の屈曲性

靴の屈曲性が悪いと、足に負担がかかるだけでなく、擦り足になりやすく、つまずきの原因となります。



靴の重量

靴が重くなると、足が上がりにくくなるため、擦り足になりやすく、つまずきの原因となります。靴が重く感じられる重量には個人差がありますが、短靴では900g/足以下のものをお勧めします。

靴の重量バランス

靴の重量がつま先部に偏っていると、歩行時につま先部が上がりやすく(トゥダウソウ)、無意識のうちに擦り足になりやすく、つまずきを生じやすくなります。



つま先部の高さ

つま先部の高さ(トゥスプリング)が低いと、ちょっとした段差につまずきやすくなります。高齢労働者ほど擦り足で歩行する傾向があるため、よりつまずきやすくなります。



靴底と床の耐滑性のバランス

滑りやすい床には滑りにくい靴底が有効ですが、滑りにくい床に滑りにくい靴底では、摩擦が強くなりすぎて歩行時につまずき場合があります。靴底の耐滑性は、職場の床の滑りやすさの程度に応じたものとする必要があるため、靴はできるだけ履いてみてから選定することをお勧めします。

あなたの職場は大丈夫？転倒の危険をチェックしてみましょう

転倒災害防止のためのチェックシート

チェック項目		<input checked="" type="checkbox"/>
1	身の回りの整理・整頓を行っていますか 通路、階段、出口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、 その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3	段差のある箇所や滑りやすい場所などに 注意を促す標識をつけていますか	<input type="checkbox"/>
4	安全に移動できるように十分な明るさ（照度） が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
5	ヒヤリハット情報を活用して転倒しやすい 場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
6	職場巡視を行い、通路、階段などの状況を チェックしていますか	<input type="checkbox"/>
7	荷物を持ちすぎて足元が見えないことは ありませんか	<input type="checkbox"/>
8	ポケットに手を入れながら、人と話しながら、 携帯電話を使いながら歩いていませんか	<input type="checkbox"/>
9	作業靴は、滑りにくさを考えて選んでいますか	<input type="checkbox"/>
10	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を 取り入れていますか	<input type="checkbox"/>

チェックの結果はいかがでしたか？ 問題のあったポイントが改善されれば、きっと作業効率も上がって働きやすい職場になります。

どのように改善するか「安全委員会」などで、全員でアイディアを出し合ひましょう！

第12次労働災害防止推進計画の概要

神奈川県労働局

現状と課題

- ・平成24年（第11次防最終年・第12次防基準年）の被災者数
死亡者数 46 人（対前年比 8 人減少）、死傷者数 6,689 人（対前年比 1.5%増加）
- ・増加傾向（又は、横ばい傾向）にある業種
運輸交通業、小売業、社会福祉施設、飲食店、食料品製造業
- ・平成24年の死亡災害のうち約半数は製造業と建設業で発生。
- ・死亡災害では、「墜落・転落」「はさまれ・巻き込まれ」「交通事故」で約6割。
- ・休業災害では、「墜落・転落」「転倒」「動作の反動・無理な動作（腰痛）」で約5割。
- ・「50歳以上」の労働者が被災する割合が高い（死亡災害で5割以上、死傷災害で約4割）。
特に、「小売業」、「社会福祉施設」において割合が高い。
- ・「小売業」、「社会福祉施設」、「飲食店」、「食料品製造業」においては、「非正規雇用労働者」の就業率が高く、被災する割合も高い。
- ・業務上疾病による死亡者のうち、1/3以上が「脳・心臓疾患」によるもの。
- ・業務上疾病のうち「腰痛」の発生件数は「社会福祉施設」において増加傾向にある。

計画期間

- ・平成25年度～29年度（5か年計画）

計画の全体目標

- ・平成29年までに、神奈川県内の労働災害による死亡者数を15%以上減少（平成24年比）
- ・平成29年までに、神奈川県内の労働災害による死傷者数を15%以上減少（同上）
【平成29年最終目標：死亡者数を39人以下、死傷者数を5,600人以下】

4つの重点施策

労働災害、業務上疾病発生状況の変化に合わせた対策の重点化

行政、労働災害防止団体、業界団体等との連携・協働の強化

- ・関係行政機関、専門家、災害防止団体、業界団体、産業保健機関、との連携・協働

社会、企業、労働者の安全・健康に対する意識改革の促進

- ・経営トップに対する働きかけによる安全・健康意識の高揚
- ・不安全行動防止と危険感受性向上のためのキャンペーン活動
- ・地域・職域・学校との連携による国民全体の安全・健康意識の高揚

発注者、製造者、施設等の管理者による取組の強化

- ・建設工事発注者に対する要請、
- ・荷主による取組の促進、
- ・機械設備の本質安全化の促進